

2012 年 10 月吉日

「製造業 80 社、技術者約 10,000 人の業務プロセス・人材の実態」調査結果
『開発力白書 2012』を発刊のご案内

拝啓

秋麗の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃よりひとかたならぬご高配を賜り、誠にありがとうございます。

この度、弊社が 2010 年から 2011 年にかけて実施しました「製造業 80 社、技術者約 10,000 人の業務プロセス・人材の実態」の調査結果を『開発力白書 2012』を発刊いたしました。

主な読者対象は、製造業の経営者やマネージャーなど、現場の改革をリードする方々で、これまでブラック BOX であった製造業の開発業務プロセスや技術者のモチベーションやコミュニケーションなどについてまとめています。

弊社は製造業を中心とした業務コンサルティングを行っております。これまでに、トヨタ自動車様、ニコン様、ヤンマー様、京セラドキュメントソリューションズ様、アルパイン様（以上活動成果をご発表頂いた企業様）をはじめとする多くの企業のご支援をしております。

今回発刊した『開発力白書 2012』では、例として以下のような内容が把握できます。

- ・やはり企画が強い韓国。マネジメント力も日本を越す勢い
- ・チャレンジせず、限られた市場に集中する日本製造業（プロダクト・ポートフォリオ）
- ・リーマン・ショック後も着実に開発力を向上させている日本製造業
- ・大規模製品（自動車など）ほど、開発人件費を圧縮
- ・品質、コスト、期間（納期）の目標達成度合いは、やはり自動車系が強い
- ・成功した製品開発プロジェクトはすべての業務が高いレベルで行われている
- ・トップマネージャーは「迅速な判断」と「メンバーとの目標共有」が優れている
- ・相変わらず「機能」、「品質」重視の製品開発
- ・20 代のモチベーションやコミュニケーションなどが課題
- ・データベース系の IT 整備がまだまだ不十分な日本製造業

『開発力白書 2012』は、弊社が独自で定義した「開発力調査」という、業務プロセス・人材の実態を定量化する指標で企業を調査し、まとめたものです。「開発力調査」は企業の製品開発業務と、技術者の行動特性が見える化し、競合他社の平均点と比較することで企業の強み・弱みを把握する調査です。

開発業務全般を調査しており、全体感のある業務改革の方向性を示唆できる点が特徴です。国内では、実績 No1 の調査と認識しております。ご参照いただければ幸いです。

敬具

【書籍概要】

- タイトル：『開発力白書 2012』
- 著 者：福嶋 徹晃・高野 昌也・濱田 研一・菅 仁
- 監 修：北山厚
- 仕 様：A4 判、並製本、96 ページ
- 定 価：定価 3,150 円（本体価格 3,000 円＋税）
- 発行日：2012 年 10 月 13 日
- 発 行：株式会社 iTiD コンサルティング
- 発 売：出版文化社
- ISBN ：978-4-88338-465-5

■■■■調査結果（抜粋）■■■■

調査期間：2010 年 10 月～2011 年 12 月

調査方法：製造業のエンジニアを対象とした WEB によるアンケート調査

有効回答数：8,876 名（部長：3.8%、課長：16.5%、係長：22.2%、社員：55.1%、及びその他）

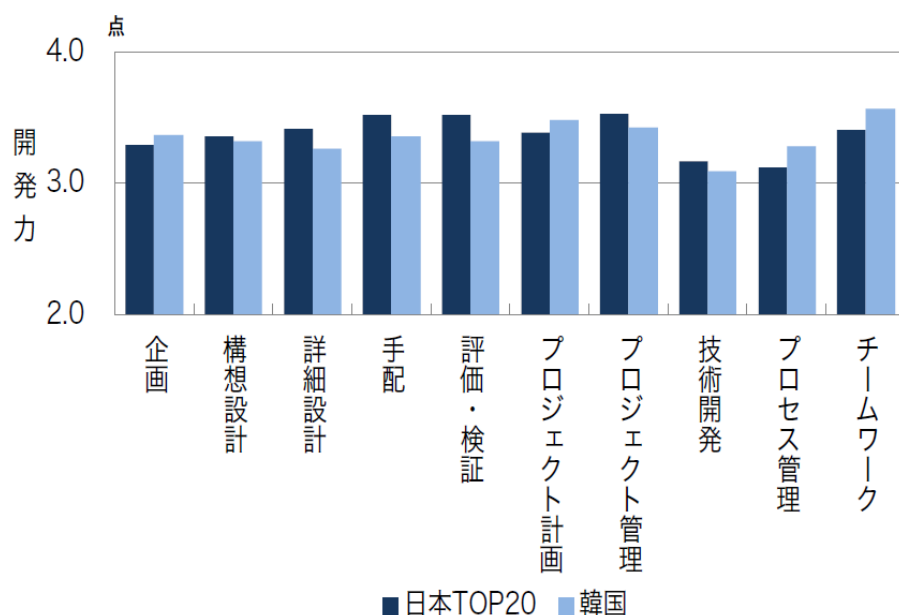
【開発力の自動車、技術者力の精密機器】

◎開発力は自動車業界が高い。一方、精密機器や工作機械は技術者力が高い傾向。

開発力ランキング カッコ内数字は前回順位	技術者力ランキング
1位 自動車 (2)	1位 精密機器
2位 自動車部品 (1)	2位 自動車
3位 事務機器 (3)	3位 工作機械
精密機器 (4)	事務機器
工作機械 (5)	自動車部品
建機・農機 (6)	建機・農機

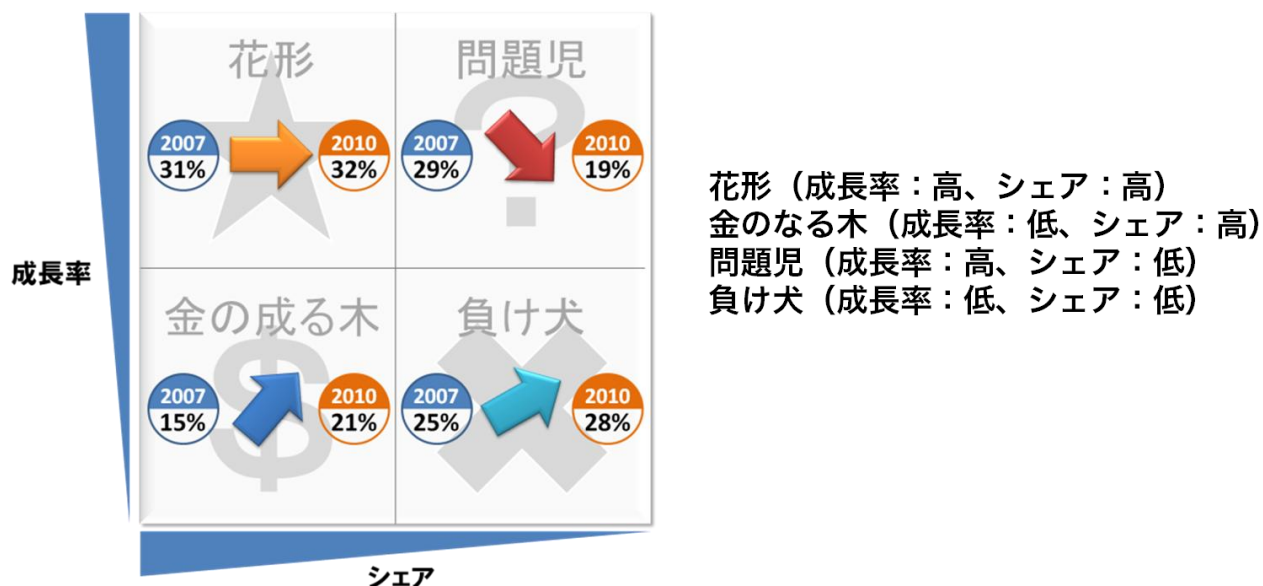
【やはり企画が強い韓国。マネジメント力も日本を越す勢い】

◎エンジニアリングはすり合わせ文化の日本に軍配。マネジメントは韓国に抜かされている項目が目立つ。



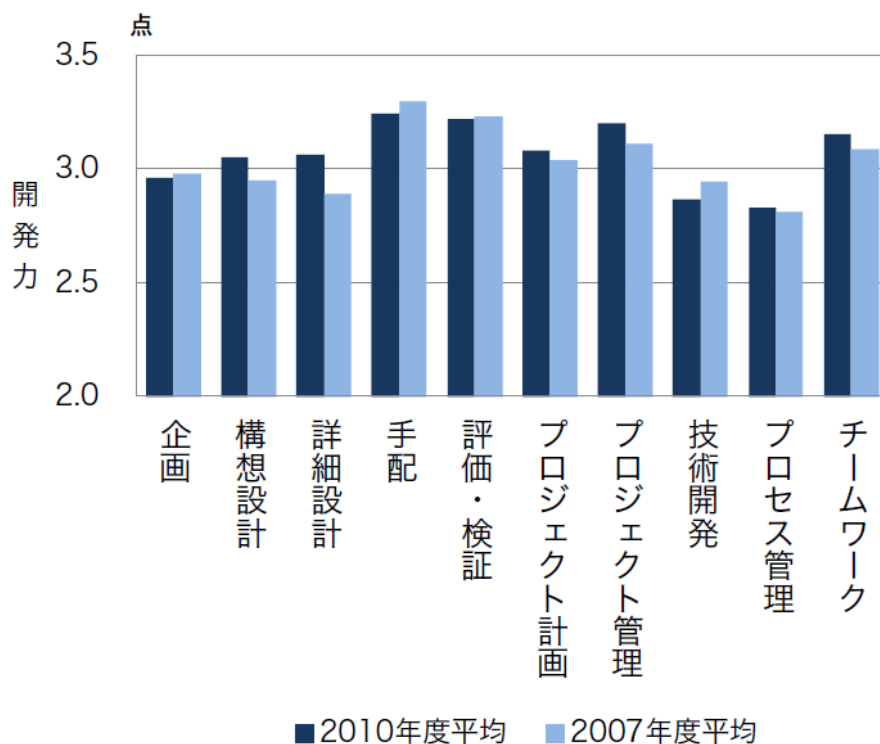
【チャレンジせず、限られた市場に集中する日本製造業（プロダクト・ポートフォリオ）】

◎問題児が減少し、金のなる木と負け犬が増加。日本製造業は新しい市場を開拓する製品開発よりも、限られた市場内のシェアを追い求めている傾向。



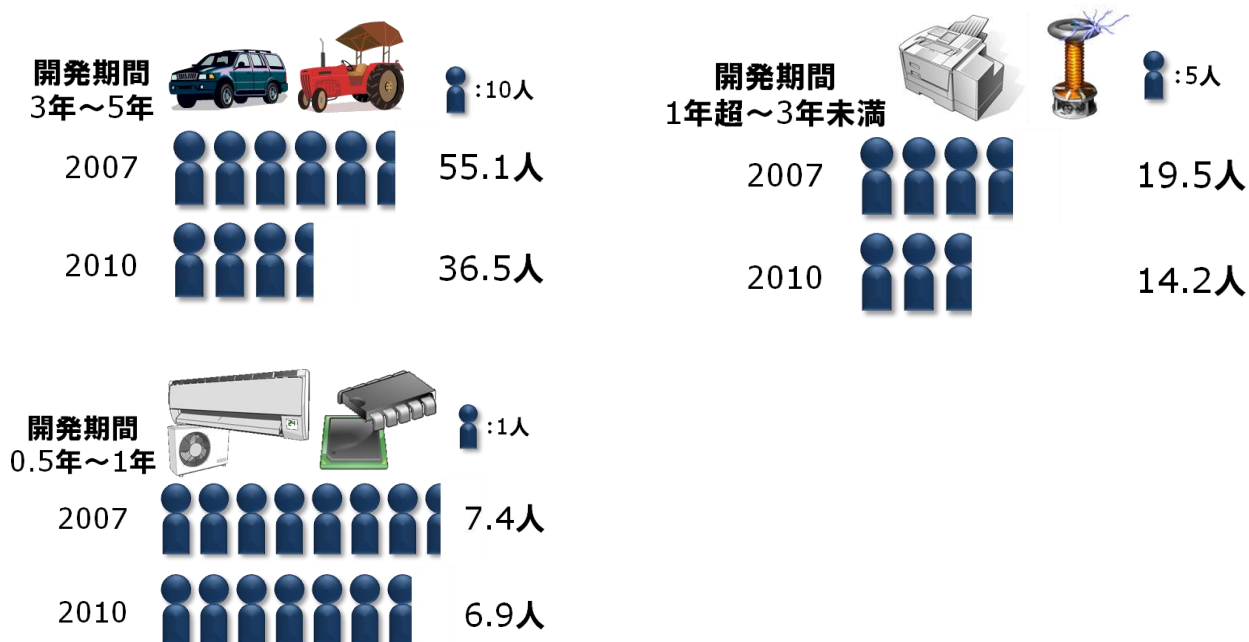
【リーマン・ショック後も着実に開発力を向上させている日本製造業】

◎開発スタイルのフロントローディング化が進む。複雑化やグローバル化に対応しているものの、先行技術開発に手控え感がある。



【大規模製品（自動車など）ほど、開発人件費を圧縮（1製品あたりのエンジニア数）】

◎大規模な製品ほど開発が効率化されている。一方で、過剰な効率化から疲弊に繋がる可能性も高い。



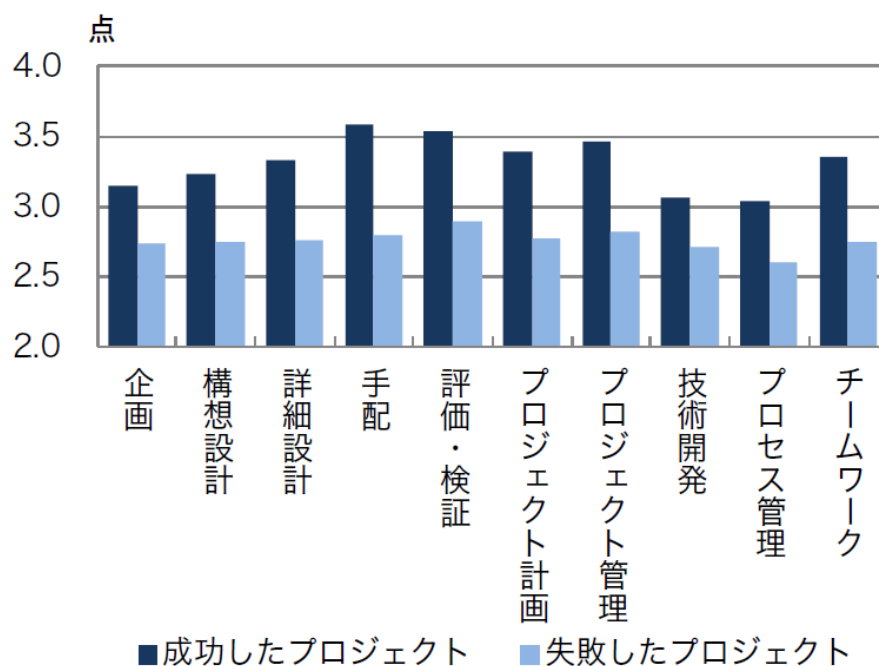
【品質、コスト、期間（納期）の目標達成度合いは、やはり自動車系が強い】

◎1、2位を自動車、自動車部品業界が占め、品質、コスト、納期に対する目標の必達度合いの高さが垣間見える。

品質達成度ランキング カッコ内数字は前回順位	コスト達成度ランキング カッコ内数字は前回順位	期間達成度ランキング カッコ内数字は前回順位
 自動車部品 (1)	 自動車 (5)	 自動車 (2)
 自動車 (2)	 自動車部品 (2)	 自動車部品 (1)
 建機・農機 (6)	 精密機器 (3)	 精密機器 (4)
事務機器 (3)	事務機器 (1)	事務機器 (3)
精密機器 (5)	建機・農機 (6)	工作機械 (5)
工作機械 (4)	工作機械 (4)	建機・農機 (6)

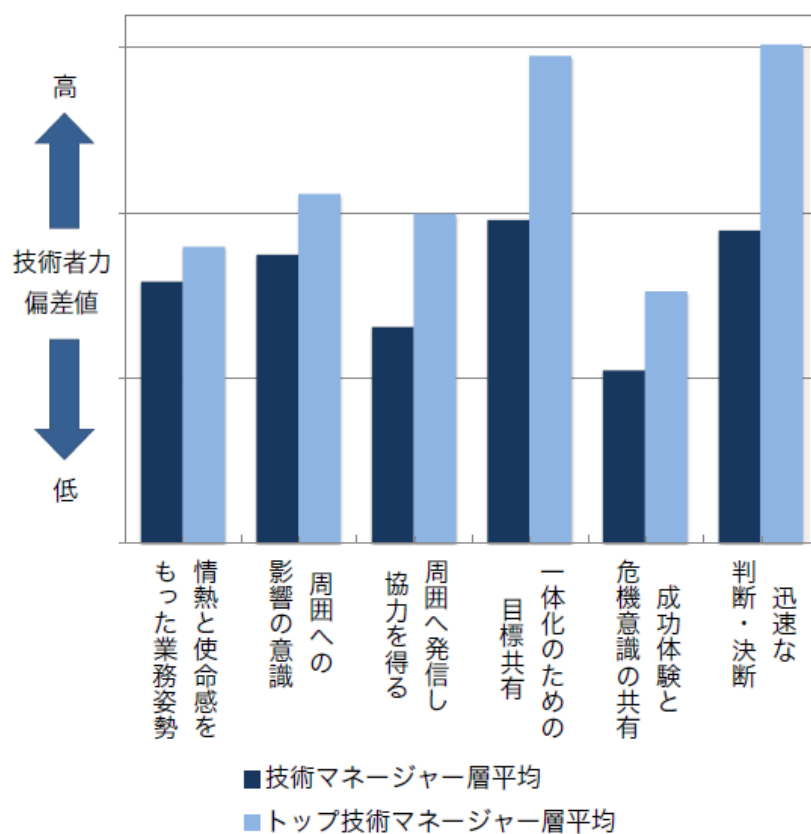
【成功した製品開発プロジェクトはすべての業務が高いレベルで行われている】

◎すべての項目で成功した製品開発プロジェクトが上回る結果。



【トップマネージャーは「迅速な判断」と「メンバーとの目標共有」が優れている】

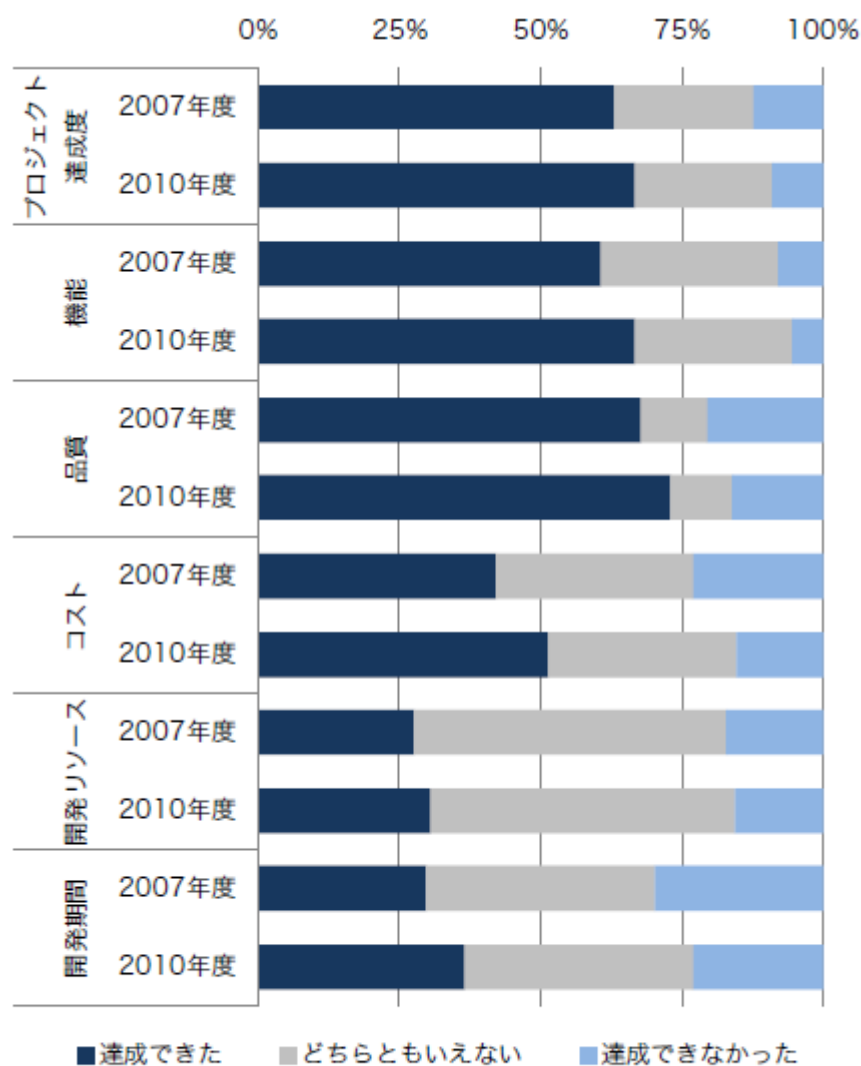
◎メンバーとの目標共有、迅速な判断・決断に差。



【相変わらず「機能」、「品質」重視の製品開発】

◎「機能」、「品質」の目標達成度合いは高いが、機能、品質を達成するために残業し、間に合わなければコストダウンも充分でないまま、納期を遅らせて対応している状況が垣間見える。

◎品質（Q）、コスト（C）、納期（D）などすべての項目で、2007年より目標達成度合いは高まっており、技術者から見て、QCDに関する達成度は年々高まっている傾向であるといえる。

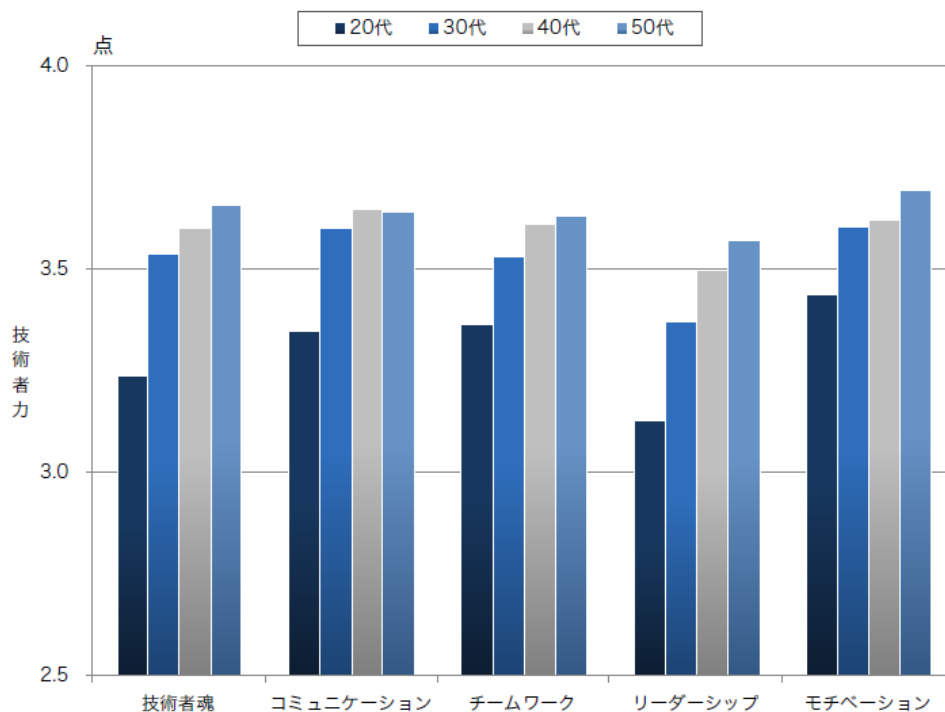


プロジェクトの各目標達成比較

【20代のモチベーションやコミュニケーションなどが課題】

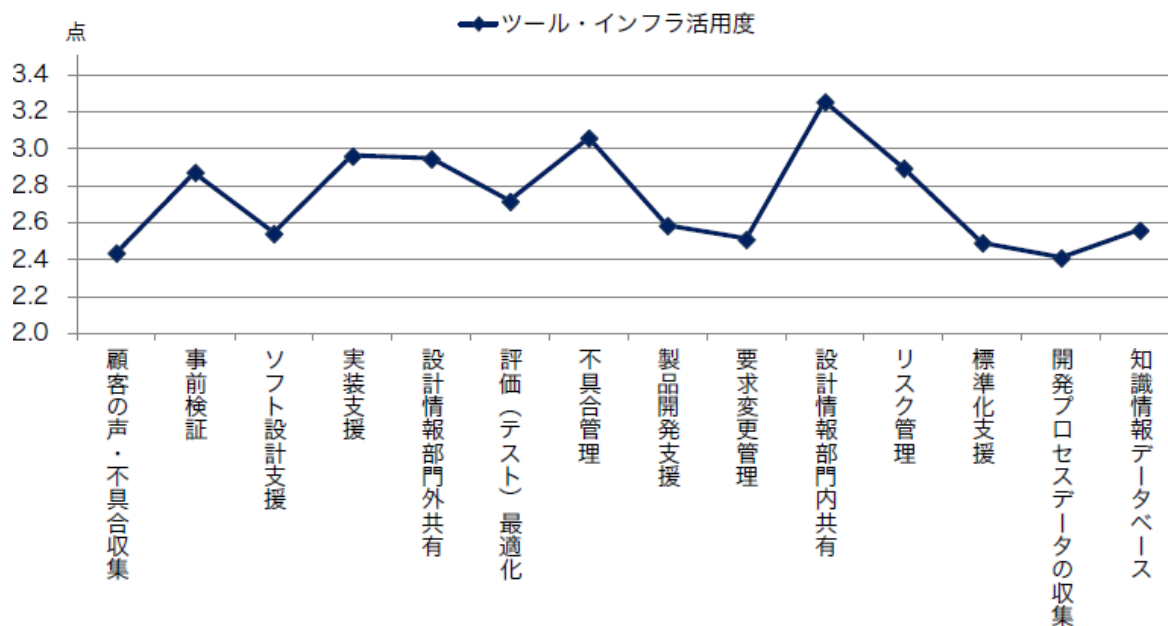
◎50代のモチベーションが一番高く、低いのは以外にも20代の技術者である。

◎20代のエンジニアは経験不足が影響していると思われるが、技術者魂（エンジニアとしての熱意）とリーダーシップが低い。エンジニアとしては50代が最も充実している時期といえる。



【データベース系のIT整備がまだまだ不十分な日本製造業】

◎顧客の声・不具合収集のDB、プロジェクトで掛かった工数、不具合件数などが分かるDB（開発プロセスデータの収集）、部品の標準化などを支援するCAD、PLMの活用などに課題。設計情報（仕様、図面、ソースコード、変更管理）などの情報共有は、相対的に見て活用できている結果である。



<会社概要>

【代表者】 吉本 敦

【設立】 2001 年 6 月

【資本金】 3 億円

【事業内容】 業務コンサルティング

【HP】 <http://www.itid.co.jp>

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社 iTiD コンサルティング 広報担当：福島 徹晃（フクシマ テツアキ）

TEL：(03)6713-5700（代表） FAX：(03)6713-5899 E-mail：g-info@group.itid.co.jp